



みなみの風

【発行日】

令和8年6月10日

【発行者】 学校長

《学校教育目標》 自ら学び、心豊かに、たくましく生きる子の育成
学校生活における合言葉 「生き生きわくわく」と「3つの『あ』」

大型連休があったこともあり、この2か月半はあっという間に過ぎたような気がします。今年度から2期制に移行したので、「1学期が半分過ぎた」という表現は使いませんが、この2か月強でどのような成長が見られたでしょうか。毎日のことなので気付かないこともあるかもしれませんが、変わっていないようでいて、実は着実に成長を遂げていることがあります。ぜひ、ちょっとした成長を近くにいる人が認めていきたいものです。

5月に行われた学校公開には、多くの方々に来校いただき、感謝いたします。学校教育目標はもちろんですが、各学級で定めた学級目標達成に向けて学び続ける子どもたちを、今後も応援していただければ幸いです。

日光修学旅行で思い出がまた一つ…

多くの方々の支援を受けて、無事に行ってきました！【5月21～22日】

天候が心配された今年の修学旅行ですが、霧雨は降り続きましたが、さほど傘をささずとも見学できたことはありがたい限りでした。6年生一人一人にとって思い出に残ったことは様々だとは思いますが、私を感じたこととして、まず、仲間同士の対話が多く、とても温かい子どもたちだと感じました。相手を思いやるのはもちろんのこと、仲間同士でも「ありがとう」が自然と発せられており、関わっていただいた方々に対しても、感謝の心を「ありがとうございました。」と気持ちよく伝えることができている、本校の誇り高き6年生でした。

保護者の皆様には、準備の段階から様々なご支援をいただき感謝申し上げます。ありがとうございました。



夕朝食はいっぱい
食べたかな？



名瀑「華厳の滝」は水が少いうえに、霧で見えず… 残念…



毎日の給食が楽しみ ～1年生は自分たちだけで配膳開始～

今年度から栄養士が変わり、5月になるとこれまでとは異なる献立が並ぶようになりました。活動的な子どもたちは給食を楽しみにしている子が多く、朝からその日の献立を話題にしている声を聴くことさえあります。

1年生は、これまで6年生の支援を受けていた配膳を自分たちだけで行うことになり、これも自立への第一歩といえます。先日配膳の様子を見に行きましたが、これがなかなかよくできており、とても感心しました。もちろん課題はまだ残りますが、頑張っているのは事実です。

「食べることは生きること」
「生きることは食べること」
たくましい子に育つには、食べることに喜びと感謝をもち礼儀をもって食に向かい合うことも必要かもしれません。



第1回学校公開 ～お越しいただきありがとうございました～

5月16日に行われた学校公開には、多くの保護者の方々にお越しいただくことができ、本当にありがとうございました。

新たな学級編成になって1か月半ですので、学年によってはまだまだ発展途中であったり、逆に学級の特徴が見えたりなど、様々だったかと思われます。保護者の皆様は、どのように感じられたでしょうか？

さて、本校の教育をコンパクトにまとめたグランドデザインでは、いくつかのキーワードがありますが、その一つとして、「明日も行きたくなる学校」というものがあります。楽しいことがあれば行きたくなると思いますが、性格等が異なる集団で生活していれば、必ずしも楽しいことばかりとは限りません。時にはけんかしたり、時には泣いたりすることもあるでしょう。我慢することも必要なのかもしれません。しかし、「楽しさを与えられるのを待つ子」ではなく、「楽しさを自分から見付けられる子」になってほしいと思っています。

授業の在り方再構築 ～協働的な学びを推進します～

学級担任や教科担当は、授業が学校生活の多くの時間を占めるので、より充実した授業展開について日々考え、準備をしています。

授業のスタイルで思い出されるのは、教室前方に教卓があり、教員はその前に立ち、子どもたちは前方に向かってそろって並んでいる机・椅子の光景ではないでしょうか。よく「スクール型」といわれます。

もちろん発達段階で異なる部分はありますが、本校はいわゆる授業スタイルを今一度再構築し、学びをいかにして子どもたちの主体性が発揮される場とするかを研究しています。

また、開成南小という狭い環境で研究するのではなく、昨年度から足柄上郡・南足柄市の他の小学校の授業研究に参観する取組も始めています。わくわくするような授業を目指していきたいと思えます。

屋上で学区を知る ～3年生・社会科の学び～

足柄平野に位置する開成町は、県内で最も面積が小さいのですが、山を有しておらず、平地が多い地域です。着任以来、とても住みやすい地域であると実感しています。

子どもたちは3年生になると、学校内から自分たちが住んでいる「まち」について、学ぶこととなります。過日、3年生の子どもたちは、校舎屋上に行き、まちの様子を調べていました。校舎は2階建てとはいえ、一般住宅よりは高い位置から見渡せることが



できるので、多くの発見があったようです。開成町が大好きな子どもたちにとって、とても貴重な時間になったようでした。次は一体、どこに出掛けるのでしょうか？

「子育てアラカルト①9」～『教師の五見』を紐解く～

職員室と印刷室のドアには、「教師の五見」という掲示物があります。「子どもをかけがえない命として見る」「子どもの目の高さで見る」「親の立場で見る」「授業の外で見る」「自分を見る」の5つの「見る」です。

それぞれには、具体的な言葉が添えられており、「親の立場で見る」には『もし我が子だったら』泣いている親はいないか』『言えないでいる親はいないか』と記載してあります。もちろんこれらは、「教師の～」となっているので、我々教職員が日頃から保護者に対して配慮すべきことではありますが、改めて考えると、教職員と保護者の関係だけではなく、保護者同士の関係でも当てはまるのかなと思います。

保護者間が良好な関係であることが、子どもたちにとっても大いにプラスになると思います。過去がすべてよいとは思いませんが、私も小さいころ、友達の親や地域の方に褒められるだけでなく、叱られたり注意されたりした経験があります。叱られること自体はうれしいことではありませんが、それでも自分のことを大切に思ってくれていると感じ、その人を嫌いになることはなかったと記憶しています。

地域コミュニティや近所付き合いが希薄になってきているといわれて久しいですが、開成町は「人づくり」に力を入れており、予算面でも教育全般や子育て支援の充実が図られています。しかし、お金では買えない「人の温かさ」と「厳しさ」は、大人がいかに意識するかにかかっており、覚悟が求められているのではないのでしょうか。子どもたちの存在を「ど真ん中」に据えれば、地域の子育てに遠慮は不要だと考えます。

